

すて〜じ通信



発行 平成25年11月13日 第10号

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町334番地9 あい・ぶらざ1F

社会福祉法人北海道社会福祉事業団

胆振日高障がい者就業・生活支援センター すて〜じ

Tel / 0142-82-3930 fax / 0142-82-3933

E-mail / stage@dofukuji.or.jp

発達障がいの人達の就労支援について

胆振日高障がい者就業・生活支援センター すて〜じ
センター長 小林 繁市

当センターにおける10月1日現在の登録者は283名で、そのうち13名が障がい種別で発達障がいに分類されています。これらの人達の多くは知的障がいを伴わないアスペルガー症候群や高機能広汎性発達障がいの方々が多く、13名のうち6名は医学的診断や総合相談所等による判定を受けていますが、他の7名については診断のための通院拒否など、障がい受容が出来ていない人達です。

当センターに訪れる主な理由は就労相談ですが、その背景には発達障がいがあるが故の、社会に出てから「生きづらさ」を感じたり、社会的ルール・しきたりが馴染めず、周囲の人達から「困った人」と評価されるなど、様々な問題に直面しています。

就労状況については5名は一般企業での就労、3名は就労継続支援 A 型事業所の利用、他の5名が求職中となっていますが、日頃の支援を通じて感じることは、得意不得意の差が大きかったり、情報処理の仕方や物事の感じ方、理解の仕方が一般の感覚とは異なっているということです。こうした実態に合わせて、当センターでは発達障がいのある人達の就労支援を行うにあたって、次のような点に留意しています。

- ◎発達障がいの人達の多くは、稼働力に対して自己を過大評価しがちです。このため、最初は就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所などを利用してアセスメントを行い、その結果によって適性を見極め一般就労に繋げるようにしています。
- ◎新しい環境、初対面の人達の中で仕事を始めるときには、緊張から仕事が手につかず混乱してパニックや逃避傾向になってしまいがちです。そこで仕事に慣れるまで支援者が横について見守り、一緒に仕事をしたり環境調整を行っています。
- ◎発達障がいの人達は、「人づきあいがうまくできない」「他人と良好な関係が続けられない」など、コミュニケーションや社会性が欠如している場合が多く、就労面だけではなく、生活面を含めた一体的な支援が必要です。障害者就業・生活支援センターでは就業と生活の一体的な支援を行っています。



研修会に参加して

～平成25年度相談支援・就業支援セミナー～ 主催日本知的障害者福祉協会相談支援部会

就業サポーター 田中 崇之

今回、東京都で行われました「相談支援・修行支援セミナー」に参加させていただきました。今回のセミナーでは、「共生社会の実現を目指して～相談支援・就業支援の課題と展望～」というテーマでした。平成25年4月1日より障害者総合支援法が施行され、障がいのある人もない人も共に暮らすことの出来る共生社会を目指して、障がいがあることによって「生きにくさ」を抱えていたり、「社会参加」の機会阻まれたりたりしている人達に対して、「社会の側の問題」として総合的、計画的に除去していくことを基本理念として掲げています。この実現のためには相談支援や就業、生活支援など「地域で暮らす」ための各種の一層の充実が必要となります。また、障害者雇用促進法の改正によって、平成25年4月1日より民間企業の法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられ、さらに平成30年度からは精神障がい者の雇用が義務化されることになりました。このように、障がい者雇用については、追い風の状態のあると言われていますが、このチャンスを活かすためには、障がい者と事業主等の関係をつなぐ「障害者就業・生活支援センター」の役割がますます重要になってくると言われています。分科会では就業支援についての実践報告とシンポジウムが行われました。実践報告の中で一般企業から参加されていた、株式会社高島屋で販売支援担当係長の大橋氏から、企業側の目線からのお話がありました。その中で、実習や雇用先の開拓で企業を訪問する際には、これまでに障がい者を雇用したことがない企業では、障がい者に対する理解や法的な知識がないために、就業支援担当者が障がい者雇用をすることによる企業側にとってのメリットなど、障がい者雇用に向けての助言や具体的な道筋の提案をしていただけると、企業側も受け入れしやすくなるのではないかと話されていました。今後、実習先の開拓で企業を訪問する際には、今回の企業側の意見を念頭に置いて、より障がい者雇用の促進につながるようにしていきたいと思います。私自信、このようなセミナーにはじめて参加させていただきましたが、全国各地から参加されており情報交換の機会となりました。

就業支援員 猪股 正寛

平成25年11月15・16日東京都有明にて、標記セミナーが日本知的障害者福祉協会主催で開催され、すて～じから私と就業サポーターの田中さんが出席しました。内容として、初日は厚労省障害福祉課の遅塚専門官からの行政説明から始まり、毎日新聞論説委員野沢氏から障害者福祉の動向等についてのお話、次に「地域における共生の実現を目指して～現場の実践が未来を拓く～」と題し、島根県（社福）いわみ福祉会山崎氏、北海道（社福）NIKORI 山崎氏、奈良県（社福）青葉仁会榊原氏の3氏から各地域での状況や課題等の実践報告があり、その後前出の遅塚専門官と相談支援部会長の小林参与を含めてシンポジウムを行っております。2日目は、「相談支援」「一般相談」「就業支援」の分科会に分かれて、それぞれの分科会でシンポジウムが行われましたので、就業支援の分科会について報告したいと思います。まずは、厚労省就労支援専門官山科氏より行政報告があり、A型事業所の短時間就労の問題に対し週平均20時間を超えるような促しをしていくとのことと、就労実績の上がない就労支援事業所に対し、各ナカボツセンターに就労支援指導員を配置し、移行支援機能の強化に向けた支援を行うとのことと。次に、各企業・事業所からの実践報告があり、その中の榊高島屋販売担当係長大橋氏の話についてふれたいと思います。現在高島屋横浜店では重度知的障がいの方2名を含め28名の障がい者を採用しており、伝票の押印や紙袋のリボン付けなどの作業を行っているとの事です。日々、皆さんが「待ち」の姿勢で作業を行うことが一人一人の可能性をつぶすと考え、終業時にそれぞれ翌日行う仕事を決めてもらうことで、自己選択・自己決定を習慣化し、自分の仕事に責任を持つことができたとのことと。一般的に企業側として仕事を「与える」ことがほとんどだと思のですが、自分で仕事を「選ぶ」ことで効果が現れ、結果生産性も向上していることに着目すると業種によっては参考になるのではと思いました。最後に、支援者側が企業に「メリットのある提案」をしていくことが、これからの障がい者雇用の向上につながるようになるとの話もあり、支援者側として身の引き締まる思いで聞いております。2日間通して、行政報告・実践報告と業務を進める上で大変参考になる話しか聞いておりますので、これからの仕事に役立てていければと考えております。



第2回「在職者の集い」を開催しました！！

先月27日（金曜日）に、今年度第2回目の在職者の集いを開催し、皆さん健康について興味があるのか多くの参加者に参加いただきました。今回のテーマは「健康管理も仕事のうちですよ」と題し、伊達市障がい者福祉係佐藤主任保健師さんにお越しいただき、健康で楽しく働きながら生活していくために何が必要なのかを分かり易く説明していただきました。佐藤保健師さんは健康を維持していく上で大切なこととして「運動～仕事以外でも体を動かす」「労働～働き甲斐は生き甲斐の源」「睡眠～寝つきが良い、目覚めが良い」「休養～休養は心の潤滑油」「食事～朝食は一日の源」「会話すること～30分以上」の6点を挙げられています。中でも特に朝食、睡眠が大事ですと話され、会場の皆さんに質問したところ、朝食を摂らない方が意外と多く（食べても半分くらいは残してしまう）睡眠も夜更かしされる方がこれもまた多いのが実情のようです。ついゲームなどに熱中してしまい、気が付けば午前様になっていたりとか、ファーストフードが大好きだったり、健康について気にされていても中々難しいようです。保健師さんからのお話の後は参加された皆さんから、独自の健康法について紹介していただきました。中には？が付くような健康法であったり、これは自分もやってみようかなと思うような健康法があったりと様々でした。

みなさんが積極的に発言し盛り上がっていましたので、予定時間を過ぎて中々終わることが出来ず保健師さんには申し訳なかったと思っています。お忙しい中貴重はお話をいただきました佐藤保健師さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。この機関紙を読まれています貴方（私もそうですが）、健康について自分の食生活などを振り返ってみてはいかがでしょうか・・・

参加者の感想を載せてみました

- 参加者のAさんは バランスのとれた食事をするのは難しいですが、体調崩さないで仕事が続けられるように食生活に気を付けます。
- 参加者のBさんは 僕は夜遅くまでゲームをしていることが多くて寝不足のことが多いです。夜更かしは健康に良くないと保健師さんが言っていたので、これからはゲームの時間を決めてやりたいと思います。
- 参加者のCさんは 保健師さんのお話は分かり易くて良かったです。私は野菜が大嫌いですが、これからは好き嫌いしないで何でも食べようと思います。
- 担当の職員Kは 保健師さんのお話が胸に突き刺さりっぱなしでした。タバコ、深酒、偏食 etc もうすぐ50歳、少しでも長生きできるように保健師さんの言葉を胸に刻んで日々の生活を送りたいと思いました・・・出来るかな

当日の様子です。佐藤保健師さんお忙しい中ありがとうございました





研修会に参加して～平成25年度障害者就業・生活支援センター主任就業支援担当者会議

11月6日から8日まで、千葉県障害者総合職業センターで開催された「平成25年度障害者就業・生活支援センター主任就業支援担当者研修」に参加させていただきました。主任就業支援員の役割などについて、主任就業支援員の在り方について、業務マネジメント等について学びました。研修で話題になっていたのが「個別支援計画書」の策定でした。四半期報告等では件数報告の欄が設けられていますが、これは任意？でしょうかと実際には計画を作っていないセンターさんの方が多かったです。グループワークの際にもこの話題になり、私が入ったグループでは策定することを前提に意見交換をしました。どのような計画が望ましいのか？状況が変わった時点で随時計画を修正していくのかなどが議論され、本人のニーズがきちんと反映されており、「インパクトゴール」がそこにある計画書を作るべきとの意見が大勢でした。ケース検討でもグループ毎に事例報告をしています。今回は発達障がい者の就労支援の課題を提示したセンターが多く、当グループでも発達障がい者の就労支援に特化し意見交換しています。スタッフ側の都合での支援になっていないか？多角的な角度からの視点で支援したか？等々の意見が出されています。本人（保護者含む）の意思で就労系のサービスを利用することを望んでも、果たしてその選択が最善の選択なのか？セカンドベストはないのか？アセスの時に本人の周囲の環境、背景をしっかりと把握することも必要との意見がだされました。収穫のある3日間になりました。

主任就業支援員 小松 雄一



～これからの予定～

〈会議〉障がい者雇用支援地域合同会議

東胆振地区 11月18日(月曜日)於:苫小牧市 市民活動センター

西胆振地区 11月19日(火曜日)於:登別市 市民会館

日高地区 12月4日(水曜日)於:日高町 とねっこの湯

会議の資料等(一部掲載出来ない資料もあります)については、ホームページ

に掲載致しますのでご覧ください。



編集後記

とうとう北海道に冬物語の便りが届きました。この原稿を書きながら窓の外を見ると相変わらず雪が舞っています。風邪が非常にはやっているようです、帰宅時のうがい、手洗いで防ぎたいものです。今年も晴れ1ヶ月と少しになりました。毎年今年の+大ニュースが発表されますが、皆様にとっての一番のニュースは何だったでしょうか？私はやっぱり楽天ゴールデンイーグルスの田中投手の連勝記録です。この先何十年、何百年と破られない記録ではないでしょうか？彼は高校の時に始めて深紅の優勝旗を津軽海峡を越えさせてくれました。彼は北海道に、そして今度は復興に頑張っている東北に力を与えてくれました、個人的には国民栄誉賞を授与したい気持ちです。復讐か月もすると子供たちは冬休みに入ります、寒さに負けないでたくさん遊んで欲しいものです。これから雪が降り積もり、道路脇には雪の壁が出来ます。思いがけず飛び出してくる子供達もいます。車を運転される方はスピードちょっと控えめに運転しませんか？誰も悲しい冬休みにさせたくないですよね……………K